

論文名 中国企業の海外進出「走出去」の研究

—尚徳太陽能電力・三九製薬のM&Aケーススタディ

長崎大学大学院生産科学研究科

福田博彦

本研究の目的は、中国政府の「走出去」政策の現状を捉え、実証研究を行って「中国企業はなぜ海外進出をするのか」を解明することにある。01年12月中国のWTO加盟を契機に、中国企業の海外進出が開始され、これまでの世界経済の潮流が中国へ向かう直接投資から、中国企業の海外直接投資へと逆流の現象が始まったのである。これを中国政府の経済政策「走出去」政策と呼び、急速に中国企業の海外進出が全世界・地域に拡大している。

筆者の研究関心は、走出去政策の実態を把握するとともに、特に中国企業の対日直接投資が進み、日本企業の買収の外、日本市場への参入やハイテク技術獲得など顕著な動きを見せている点にある。そこで、①尚徳太陽能電力によるMSK買収と②三九企業集団による東亜製薬の二つの買収事例をケーススタディとして、中国と日本で現地ヒアリングを行った。研究の背景として、現代中国経済の結節点をみれば、大きく3点ある。第1に、78年の鄧小平による改革開放政策開始、第2に、93年の社会主義市場経済システム確立、第3に、01年のWTO加盟である。この3点は、いずれも中国経済が国際化へ向けて転換を始めた革命的なエポックメイキングの年であり、今日の中国経済発展の基礎を築いた年でもある。筆者の本研究論文で扱う主体領域は、第3の、01年中国WTO加盟を契機とした国有企業や民間企業の海外進出（走出去）についてである。

現在、世界のトップ500企業の約8割が中国へ進出し、生産基地の他、研究・開発拠点を築いている。中国の対外開放政策は成功し、驚異的な経済の急成長は「世界の工場中国」の出現によってもたらされた。今や国際分業（水平分業・垂直分業）において、中国を軸にした東アジア経済が中心的な役割を担っている構図が見られるのである。このような中国経済の急成長は、一方で様々な問題を抱え、持続発展する経済の障壁や阻害を生み出しているのも事実である。経済成長のエンジンとなる資源・エネルギー問題、環境問題、所得格差問題、雇用問題、政治的安定問題、貿易摩擦問題等枚挙に暇がない。

中国政府は、WTO加盟を契機に、これまでの外資導入策（引進來・インセンライ）から、中国企業が世界に飛び出し、海外進出を積極的に打って出る政策「走出去」政策に踏み切った。また、「引進來と走出去の結合」を目指すとしている（第1章）。

筆者はこうした中国経済の急速な国際化を背景に、中国企業の多国籍化が進む現状を捉え、現状と課題を探ってみたいと研究意欲を持った。この分野は、非常に新しいテーマであり、学会に於いても未だ比較的研究者は少なく、手掛ける価値が十分にあると考えたのである。筆者は、論文構成を2部に分け、第I部総論、第II部が本研究の中核主題となる①尚徳・MSKのM&Aと②三九・東亜のM&Aケーススタディである。第1章で中国企業13社を取り上げ、13社の海外進出動機を探っている。13社の進出動機を分析す

れば、何故中国企業が海外進出をするのか、多国籍企業の道を歩むのか、その結果何を手にするのかを考察した。本研究で明らかにしたように、中国企業の様々な進出事例や進出動機が見られた。特に、筆者の関心は、中国企業の海外進出の中でも、尚徳太陽能電力公司与三九製薬の対日直接投資の事例研究にあった。それは、二社の海外進出の方向が先進国日本市場に向けられており、「日本市場参入」と「技術獲得」「ブランド戦略」「ライセンス獲得」などにあった。

筆者の研究の独創性は、逸早く中国企業の海外進出に注目し、13 企業の中から、尚徳太陽能電力・三九製薬という他の中国企業とは大きく異なる、技術を持った企業の対日進出の事例をケーススタディとして取上げた点である。国際分業の時代を迎え、緊密化が深化、相互の巨大な市場を巡って、今後も日中間の投資は拡大方向にある。特に、技術を持った先進的な中国企業、尚徳・三九企業集団の対日直接投資の動向に焦点を当てた事例研究は未だ少なく、先行研究を見ても未開分野であり、本研究は学問的意義を持つと考える。

研究方法で特筆すべきは、研究対象企業を現地に訪問し、ヒアリングを行い実証研究した点である。本研究第Ⅱ部のケーススタディとして、無錫尚徳太陽能電力公司本社(中国無錫市)と MSK 長野工場(佐久市)を訪問した。三九製薬の事例では、富山県上市町の三九製薬本社を訪問した。

筆者の研究成果は3点ある。第1に、中国政府の海外進出「走出去」政策について、内容を明らかにした。現状と課題、展望についても分析し、既に中央政府が取り組む第1段階から、地方政府の手による「走出去」政策段階へと発展していることを尚徳・MSKのM&A研究から実証した点である。第2に、無錫市地方政府の産業支援策「尚徳モデル」への取り組み内容を明らかにし、意義ある結論を導いた。今後、地方政府の支援を受けた中国企業の海外進出が増加していくといえる。第3に、尚徳・三九の二つのケーススタディから、中国企業が海外市場と先進的な技術・資源・人材などを求めて、今後ますます中国企業の海外進出が加速化するといえる。